

出光興産創業者・出光佐三に関連する発表

経済経営研究所

石堂詩乃（技術補佐員）・小代薫（研究支援推進員）

2019年に創立100周年を迎える神戸大学経済経営研究所では、公開中の映画「海賊とよばれた男」の主人公・国岡鐵造のモデルとなった出光興産創業者 出光佐三について、学内で保管されている神戸高商時代の資料を中心に研究を進めてきました。このほどディスカッションペーパーとして研究成果をとりまとめるとともに、出光佐三「幻の電報」と言われていた当時の学長宛電報を発見しました。

また、最新の資料研究に基づき「出光佐三の企業家精神」の源流に脚光を当てた公開シンポジウム「海賊の選択：出光佐三の企業家精神」を1月23日（月）に神戸大学出光佐三記念六甲台講堂にて開催します。

1. 神戸高商卒業生・出光佐三のキャリア選択

「丁稚か Salary man か 一青年・出光佐三の選択」 RIEB ディスカッションペーパー DP2017-J01 (2017年1月10日公開) <http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/academic/ra/dp/index-j.html>

石堂詩乃（神戸大学経済経営研究所技術補佐員）、高槻泰郎（神戸大学経済経営研究所准教授）、上東貴志（神戸大学経済経営研究所教授）

前近代的商店で丁稚奉公をして将来的な独立経営を目指すか、それとも、近代的企業で「Salary man」となり安定した生活を目指すか？

前近代的な個人商店と近代的企業が混在していた明治末期、神戸高等商業学校（神戸高商）の卒業生はこのキャリア選択に直面していた。本稿では、1909年（明治42年）に神戸高商を卒業した出光興産創業者・出光佐三のエピソードを起点として、神戸大学文書史料室に保管されている進路志望書を中心に、当時のキャリア選択の実情を考察した。

当時の卒業生はどのような進路を希望していたのか？実際にはどのような進路を選んだのか？主な結果は以下のとおりである。

- ・個人商店への就職を希望する学生は毎年一定程度存在した。
- ・ごく少数ではあったが、将来の独立経営のために丁稚奉公をも辞さずに実務見習いを希望していた卒業生が出光以外にも存在していた。
- ・しかし、出光が就職した明治末期は、このような卒業生が存在した最後の時期であった。
- ・大正時代に入ると、代表的な大会社である三井物産への就職者が毎年10名を超えるなど、大きな変化があった。

2. 出光佐三の幻の電報が見つかる！

上記の研究のための調査中に、これまで紛失したと考えられていた「幻の電報」が見つかりました。

『種々手をつくしつつあり』至急上京されたし』出光』(昭和21年5月26日)

この電報は、神戸大学が進駐軍の接收対象となっていることを知った出光が、当時の神戸経済大学花戸学長に宛てたものです。出光佐三が神戸大学学舎の接收回避に尽力したことは周知で、接收対策をまとめた「接收対策委員会記録（其ノ一）」にも、その電報の内容が書き写されています。電報の現物は既に存在しないと考えられていましたが、この度その電報の現物が同記録の元帳「昭和二十一年六月 在京委員よりの通信」の第一ページに貼り付けられていたことを発見しました。

3. 公開シンポジウム「海賊の選択：出光佐三の企業家精神」（詳細別紙）

別紙のとおり1月23日（月）に公開シンポジウム「海賊の選択：出光佐三の企業家精神」を神戸大学出光佐三記念六甲台講堂で開催します。当日は映画「海賊とよばれた男」の撮影場所公開や、映画「日本のいちばん長い日」（2015年公開）の撮影にも使われた経済経営研究所（兼松記念館）・記念室において、「出光佐三特別展示会」を開催。「幻の電報」、卒業論文のレプリカ、映画撮影時の写真、サイン入り書籍等を当日限定で公開します。

（お問合わせ）神戸大学経済経営研究所総務係

TEL: 078-803-7270 e-mail: office@rieb.kobe-u.ac.jp

丁稚かSalary manか

青年・出光佐三の選択

1909（明治42）年 出光佐三の酒井商会就職について

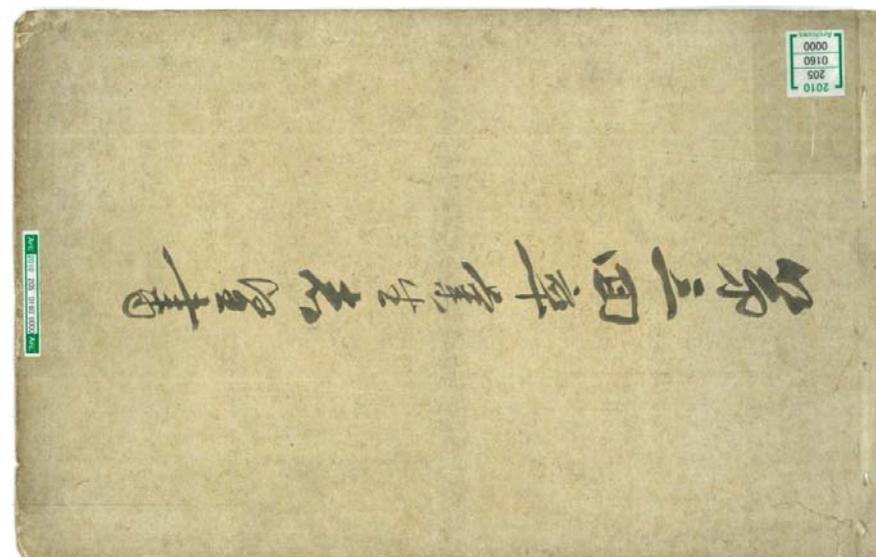
自分もこういうことをやろうと思って、見習のためにこの店に入ったんだが、学校なんか出た者ではとてもやれそうもないと思ったね。そうしてその当時のわれわれの友達を見れば、大きな会社に入って立派な格好をして威張ってるだろう。それにひきかえ、僕は前垂掛けの丁稚の姿で働いとる。また友達からも学校の面汚しだと非難される。

『出光五十年史』（出光興産株式会社、1970年）

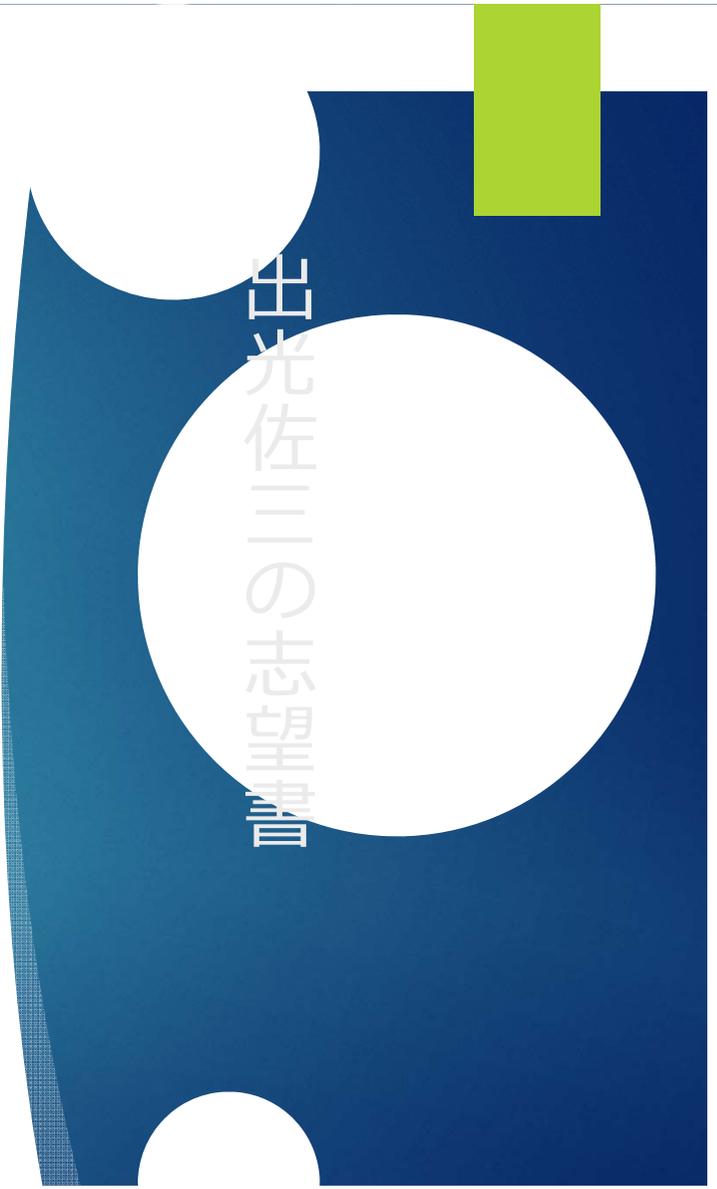
⇒神戸高商卒業生は大会社で「Salary man」となることだけを目指していたのか？

神戸高等商業学校卒業生の進路志望書

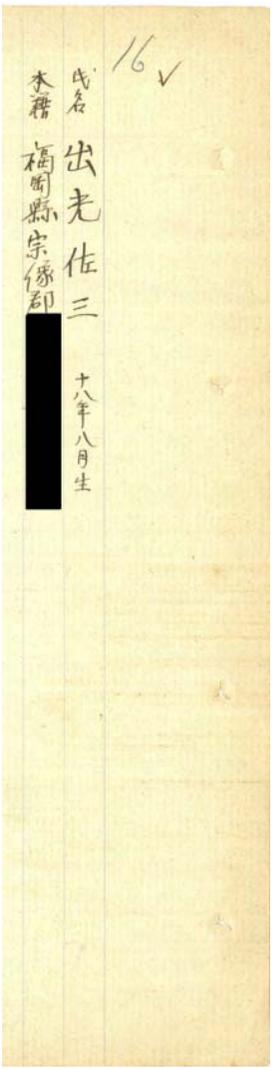
- ▶ 神戸高商卒業生の卒業後の進路についての志望書（水島校長との面談用に作成？）
- ▶ 神戸大学附属図書館大学文書史料室所蔵
- ▶ 1908（明治41）年卒業の第2回生から1932（昭和7）年卒業の第26回生までの志望書が現存
- ▶ 現時点では1916（大正5）年卒業の第10回生までの志望書を分析



『第三回卒業生志望書』

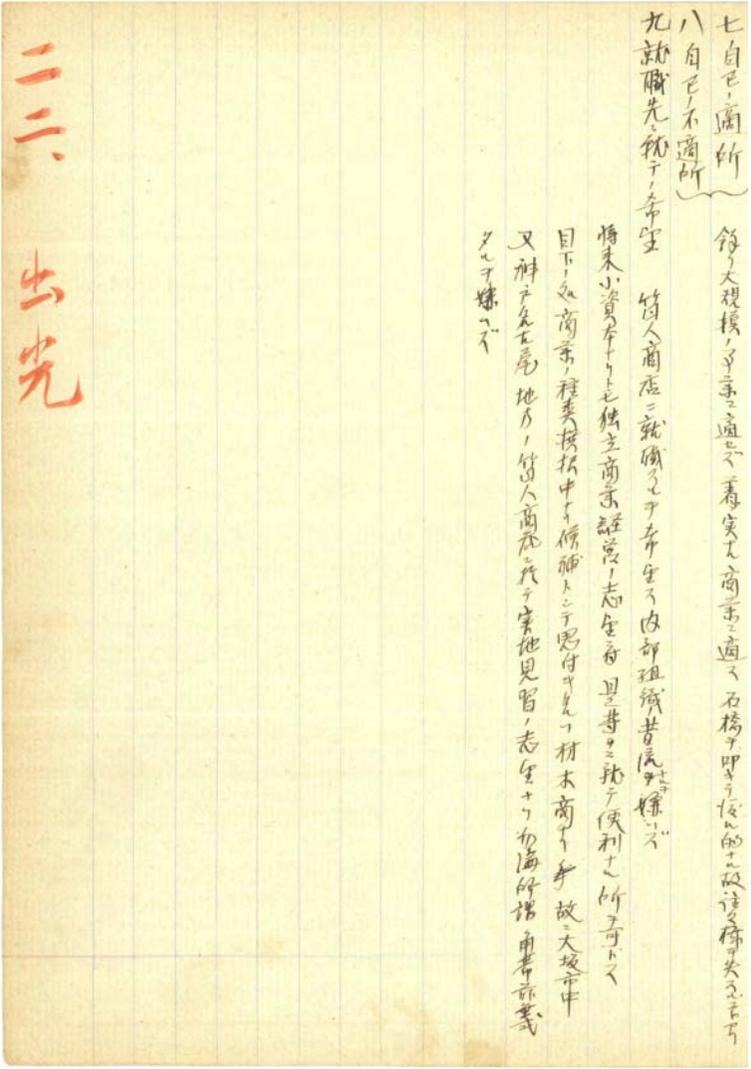


出光佐三の志望書



16 ✓
 氏名 出光佐三 十八年八月生
 本籍 福岡縣 宗像郡

(中略)



16 ✓
 出光 三三

神戸大学文書史料室所蔵 『第三回卒業生志望書』

出光佐三の「就職先二就テノ希望」

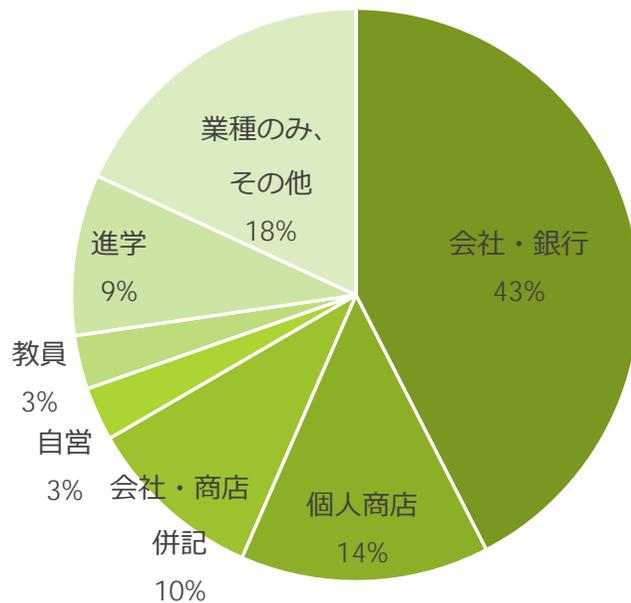
(神戸大学文書史料室所蔵『第三回卒業生志望書』)

箇人商店二就職スルヲ希望ス、内部組織ノ昔流ナルヲ嫌ハズ、将来小資本ナリトモ独立商業経営ノ志望ニ付、是等二就テ便利ナル所ヲ可トス、目下ノ処、商業ノ種類撰択中ナリ、候補トシテ思付キタルハ材木商ナリ、故ニ大坂市中、又神戸・名古屋地方ノ箇人商店ニ於テ実地見習ノ志望ナリ、勿論所謂角帯前垂式タルヲ嫌ハズ

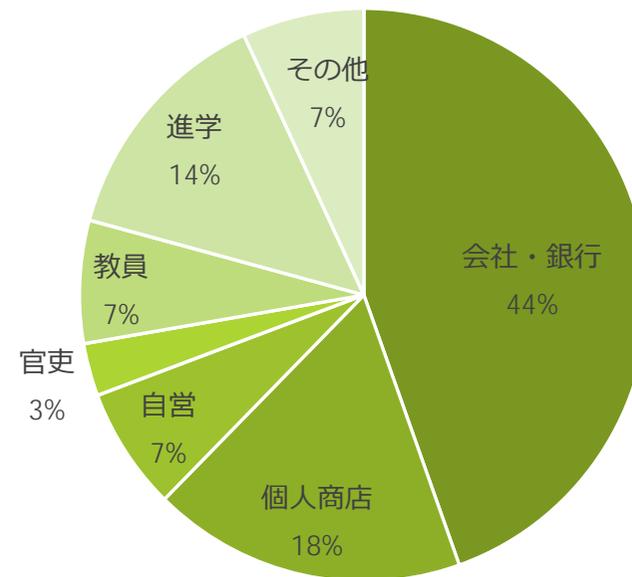
⇒前近代的な服装・職制を覚悟し、独立経営見習のために個人商店に就職

丁稚かSalary manか

(グラフ1) 第3回卒業生志望進路内訳



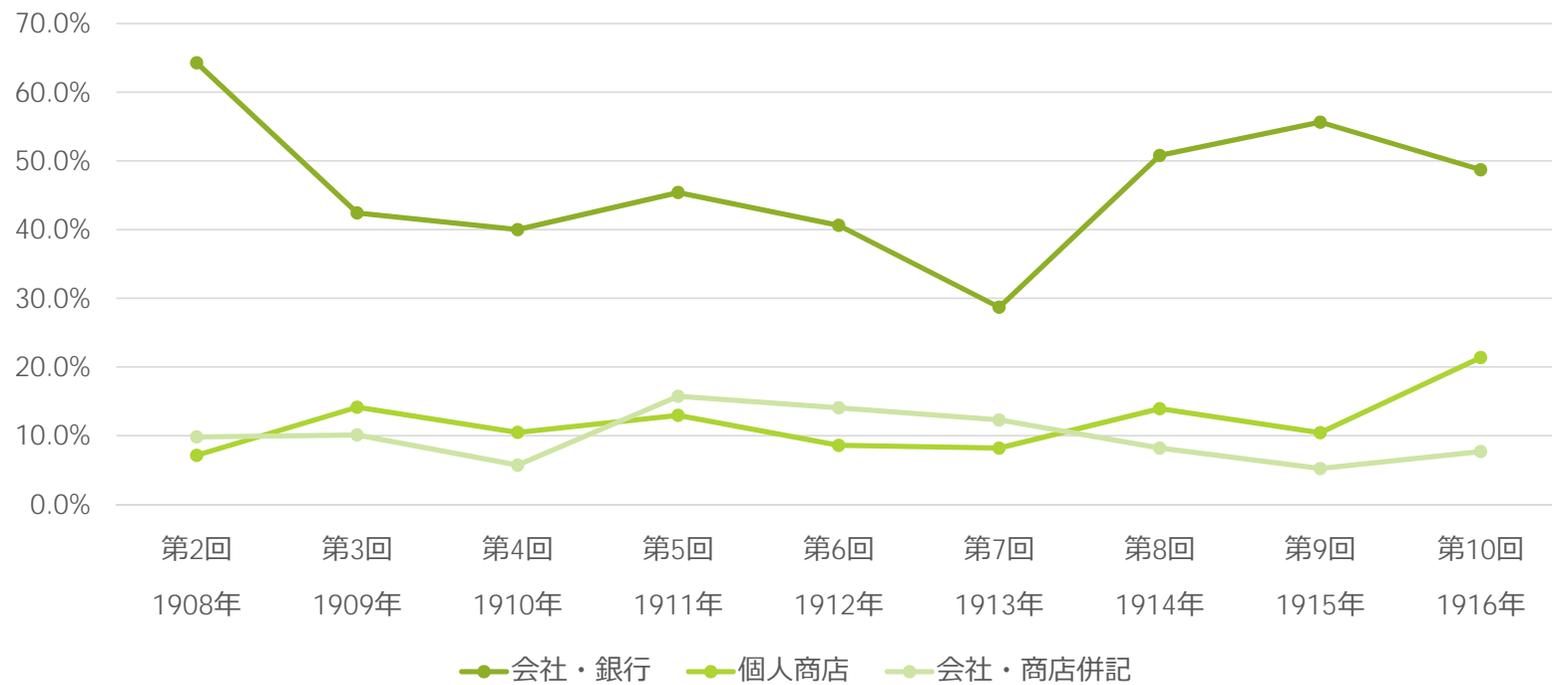
(グラフ2) 第3回卒業生実際進路内訳



神戸大学文書史料室所蔵『第三回卒業生志望書』、『神戸高等商業学校一覧』より作成

独立経営と丁稚奉公をめぐる変化

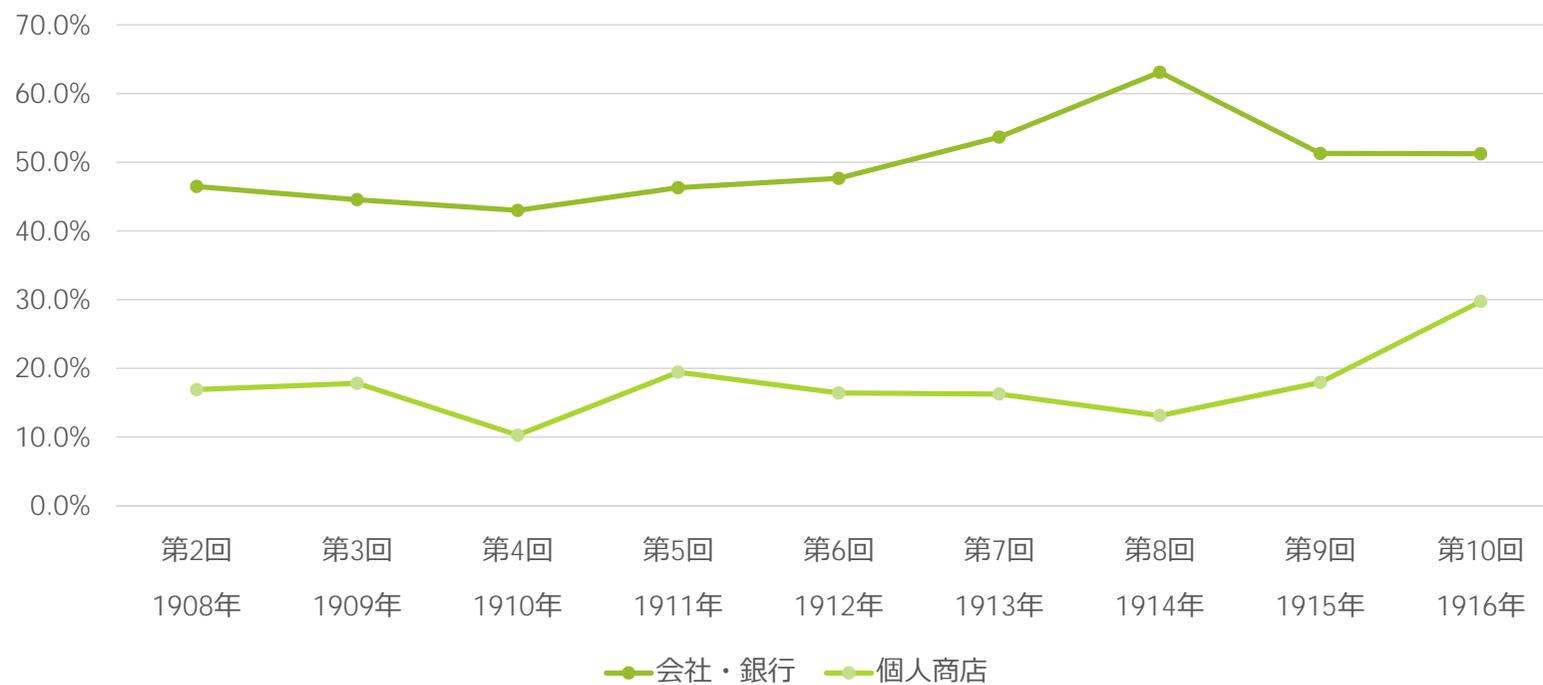
(グラフ3) 卒業生の志望進路の変化



神戸大学文書史料室所蔵『第二回卒業生志望書』等より作成

独立経営と丁稚奉公をめぐる変化

(グラフ4) 卒業生の実際の進路の変化



『神戸高等商業学校一覧』より作成

独立経営と丁稚奉公をめぐる変化

(グラフ5) 独立経営志望者の変化

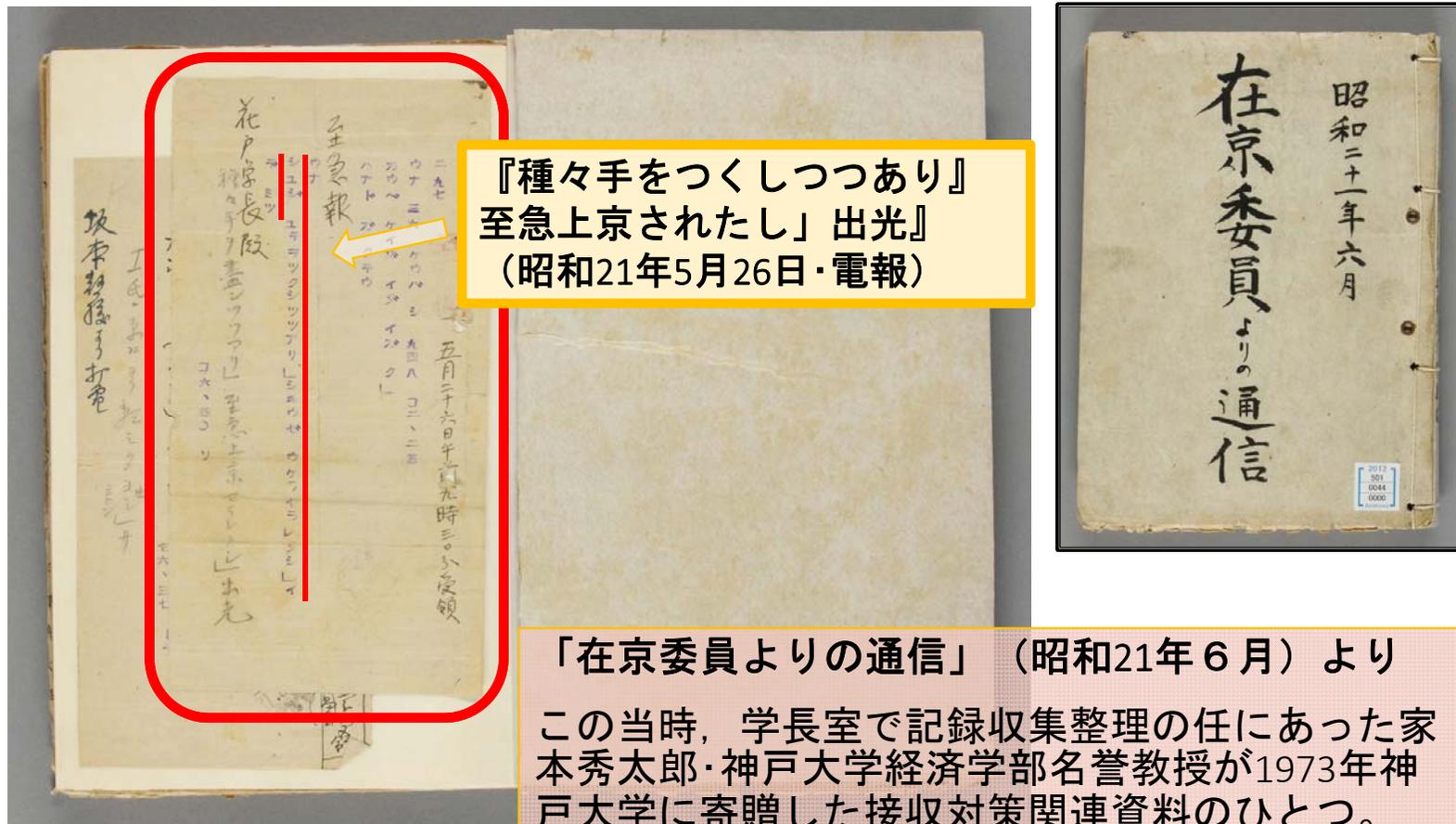


神戸大学文書史料室所蔵『第三回卒業生志望書』等より作成

出光が神戸高商を卒業した時代とは

- ▶ 実務見習のための就職で丁稚奉公を覚悟しなければならなかった最後の時代
- ▶ 大正時代に入ると、代表的な大会社である三井物産への就職者が毎年10名を超える
- ▶ 個人商店を希望する卒業生も、大躍進を遂げる鈴木商店への就職を希望
⇒卒業後のキャリア選択が大きく変化しようとする転換期

2. 出光佐三の幻の電報が見つかる！



『種々手をつくしつつあり』
至急上京されたし』出光』
(昭和21年5月26日・電報)

「在京委員よりの通信」（昭和21年6月）より

この当時、学長室で記録収集整理の任にあった家本秀太郎・神戸大学経済学部名誉教授が1973年神戸大学に寄贈した接收対策関連資料のひとつ。

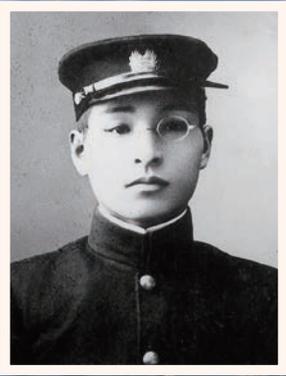
神戸大学附属図書館大学文書史料室所蔵

神戸大学経済経営研究所 公開シンポジウム
社会システムイノベーションセンター共催

海賊の選択 出光佐三の企業家精神

日時 平成29年1月23日(月)
14:30~17:30

会場 神戸大学 出光佐三記念六甲台講堂
(神戸市灘区六甲台町2-1)



神戸高商在学中の出光佐三

映画「海賊とよばれた男」は、出光興産創業者の出光佐三がモデルです。佐三は神戸高等商業学校を1909年(明治42年)に卒業し、その10年後の1919年(大正8年)に、神戸大学経済経営研究所は神戸高等商業学校・商業研究所として創設されました。2019年(平成31年)に創立100周年を迎える当研究所では、「海賊とよばれた男」の撮影も行われ、学内で保管されている神戸高商時代の資料を中心に、佐三の研究も進めてきました。本シンポジウムでは、最新の資料研究に基づき、「出光佐三の企業家精神」の源流に脚光を当てます。シンポジウム当日は、「海賊とよばれた男」の撮影場所を公開し、映画「日本のいちばん長い日」(2015年(平成27年))の撮影にも使われた経済経営研究所・記念室において、「出光佐三特別展示会」を開催します。



「海賊とよばれた男」
撮影風景(兼松記念館前)



兼松記念館

シンポジウム当日は、撮影現場の公開と、出光佐三に関する特別展示会を開催します。



【最寄り駅から】阪神御影駅・JR六甲道駅・阪急六甲駅から神戸市バス36系統「鶴甲団地行」または「鶴甲2丁目止まり行き」乗車、「神大正門前」バス下車
【新神戸駅より】タクシーにて約15分
※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

Program

- 14:30 ■ 開会あいさつ 泉水 文雄(神戸大学社会システムイノベーションセンター長・教授)
- 14:40 ■ 神戸大学のロケ地紹介 松下 麻理(神戸フィルムオフィス・代表)
- 15:00 ■ 神戸大学史にみる出光佐三の熱き活躍
野邑 理栄子(神戸大学附属図書館大学文書史料室・室長補佐/特命専門員)
- 15:30 ■ 出光佐三の理念と神戸高等商業学校の教育 井上 真由美(高崎経済大学・准教授)
- 16:00(休憩).....
- 16:10 ■ 丁稚かサラリーマンか:青年・出光佐三の選択
石堂 詩乃(神戸大学経済経営研究所・技術補佐員)
- 16:40 ■ パネルディスカッション 会:加護野 忠男(神戸大学・名誉教授[経営学研究科])
パネリスト:野邑 理栄子、井上 真由美、石堂 詩乃
- 17:20 ■ 閉会あいさつ 上東 貴志(神戸大学経済経営研究所長・教授)

〈司会・進行〉朝山 くみ

フリーアナウンサー。平成11年神戸大学経済学部卒業。名古屋の東海テレビに就職し、報道番組の司会やスポーツ中継のリポーターなど幅広く経験。出身の関西に戻り、フリーアナウンサーとして活動を始め、NHK大阪「ウィークエンド関西」のメインキャスターを4年間務めた。現在は4歳と0歳の女の子の子育てに奮闘中。

お申し込み方法

以下の窓口まで、①E-mail、②郵便葉書、③FAXのいずれかにて、氏名、所属・役職(なしでも結構です)、住所、電話番号をお寄せ下さい。お申し込みを受理させて頂いた方には、開催3日前までに受講証をお送りしますので、当日ご持参下さい。
※お申し込みの受付は受講証の発送をもって代えさせていただきます。

お申し込み窓口

神戸大学経済経営研究所 公開シンポジウム担当
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1
E-mail: sympo@rieb.kobe-u.ac.jp FAX: 078-803-7059
※お電話でのお申し込み、お問い合わせはご遠慮下さい。

定員/先着500名(定員に達し次第締切ります)
受講料/無料

- 【主催】 神戸大学経済経営研究所
- 【共催】 神戸大学社会システムイノベーションセンター
- 【後援】 ひょうご神戸プラットフォーム協議会
- 【協力】 神戸大学附属図書館大学文書史料室